

狩野川放水路 完成50周年記念 シンポジウム



～地域でつくる 水害に強い狩野川～



平成27年7月7日(火) 13:30～15:30
長岡総合会館アクシスかつらぎ(静岡県伊豆の国市)

狩野川台風の記憶をつなぐ会

<構成団体>

静岡県沼津土木事務所、沼津市、三島市、伊豆市、伊豆の国市、函南町、清水町、狩野川漁業協同組合、
特定非営利法人狩野川倶楽部、水晶山の会、狩野川資料館、国土交通省沼津河川国道事務所 ※平成26年9月29日設立

「狩野川放水路完成50周年記念シンポジウム」を開催しました

平成27年7月7日(火)、長岡総合会館アクシスかつらぎ(静岡県伊豆の国市)において、『狩野川放水路完成50周年記念シンポジウム』を開催しました。当日は、流域の住民の方々を中心に約880名もの参加者で大盛況となり、「狩野川台風からの復興」や「狩野川放水路の建設」に理解を深めていただくとともに、「風水害への備え」について考えていただきました。シンポジウムの最後には、「地域でつくる水害に強い狩野川宣言」が行われ、沿川地域が一丸となった減災、防災の推進について確認しました。

プログラム

- ◆ 開会あいさつ (伊豆の国市長)
 - ◆ 来賓あいさつ (中部地方整備局河川部長)
 - ◆ 映像鑑賞
 - ◆ 狩野川放水路建設にご尽力頂いた方々の紹介及び感謝状授与
 - ◆ 狩野川での河川改修事業による治水安全度の向上
 - ◆ 小学生による防災の取り組み発表
 - ◆ 会場参加型パネルディスカッション
 - ◆ 閉会あいさつ (伊豆市長)
- 「地域でつくる水害に強い狩野川」宣言



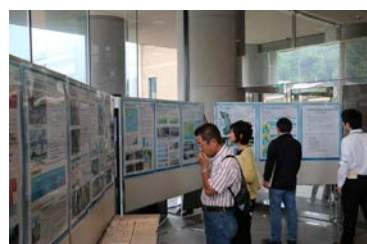
放水路整備によるストック効果(経済波及効果)等をパネル展示で紹介



開会あいさつ 伊豆の国市長



満員のシンポジウム会場



パネル展示に見入る来場者

映像鑑賞

映像「狩野川放水路～地域でつくる 水害に強い狩野川～」を上映し、狩野川流域の特徴や昭和33年の狩野川台風による被害、狩野川放水路の役割などについて紹介しました。

映像は、狩野川台風当時の被災映像や語り部による回想、放水路建設に貢献された衆議院議員(当時)の久保田豊氏や遠藤三郎氏のご功績についても触れています。



久保田 豊氏
当時衆議院議員



遠藤 三郎氏
当時建設大臣・衆議院議員

狩野川放水路建設にご尽力頂いた方々の紹介及び感謝状授与

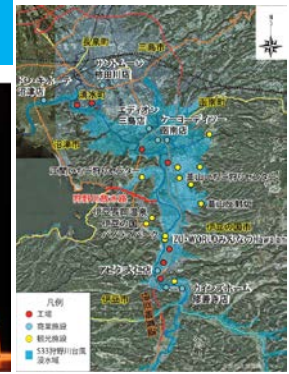
狩野川放水路建設にご尽力頂いた当時の地権者、放水路沿川区長、漁業協同組合、当時の工事関係請負業者の方々に、その功績を讃え、主催者より感謝状が授与されました。

(写真: 前列左から沼津市長、清水町副町長、三島市長、函南町長、伊豆の国市長、後列はつなぐ会メンバー。中央は伊豆市長と地権者)



(左 伊豆市長、右 漁協組合長)

狩野川での河川改修事業による治水安全度の向上



沼津河川国道事務所の梅村幸一郎事務所長より、狩野川での河川改修事業による、流域の治水安全度の向上に関する説明が行われました。（以下説明要旨）

『放水路完成後は、その後の河川改修等も相まって、流域での死者・行方不明者は1人も発生していません。かつての被災地域の安全性も向上し、今では多くの企業が立地し、地域の経済発展を支えています。しかし、100年に一度といわれる狩野川台風と同規模の水害対策はまだ道半ばです。今後河川整備を推進し、死者ゼロに努めてまいります。』



＜ストック効果(経済波及効果)説明＞

狩野川の治水安全度の向上により、狩野川台風の浸水域に工業、商業、観光施設等が進出！

小学生による防災の取り組み発表

伊豆の国市立長岡南小学校3年生、沼津市立大平小学校4年生、伊豆市立熊坂小学校5年生により、狩野川台風による被害や放水路の効果、防災について、学習を通じて学んだことや感じたことの発表がありました。



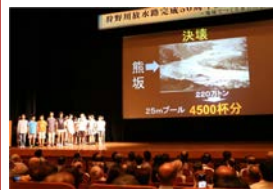
沼津市立大平小学校

大平地域の特徴、独自に作成した浸水マップ、狩野川放水路について調べたこと等について発表がありました。



伊豆の国市立長岡南小学校

狩野川台風について語り部から聞いたこと、狩野川放水路見学の感想等について発表がありました。



伊豆市立熊坂小学校

狩野川台風の被害を後世に伝える取り組みや、模型による放水路の実験・検証等について発表がありました。

会場参加型パネルディスカッション

テーマ

スーパー狩野川台風の襲来 その時あなたは！

狩野川台風の規模を上回る「スーパー狩野川台風」の襲来を想定した映像を鑑賞しながら、防災情報の収集や避難行動、地域連携をテーマに、パネリストによる意見交換や会場参加者から防災上の問題点等を述べていただき、参加者が自ら防災や避難行動について考え、理解を深める「会場参加型パネルディスカッション」を実施しました。

会場参加者からは、「災害時の情報収集として、テレビやインターネットのニュースをチェックし、停電を想定して携帯ラジオを準備する」との発言がありました。また、避難行動の課題として、「足腰が弱いため、いざというときの避難は難しい」との発言がありました。



“避難勧告”が発令されたことをきっかけとして、みなさんは避難されるでしょうか？

避難されるという方は挙手をお願いします

状況付与の映像

コーディネーター

静岡新聞
森下 俊一 編集部 部長



全国で豪雨災害が頻発する中、このシンポジウムを契機に防災意識を高めていくことが重要。

名城大学
柄谷 友香 教授



災害が起こるとどうなるかイメージできることが重要。イメージできれば、一歩先を見据えた行動ができる。

パネリスト

沼津市自治連合会
榎原 昭雄 会長



安全性が向上した反面、住民の避難意識が薄れつつある。自ら水害を意識し、水害に対応できることが必要。

国土交通省
沼津河川国道事務所
梅村 幸一郎 所長



身近な情報から起こりうる災害を想像し、避難できるよう、行動を変えていくことが重要。

「地域でつくる水害に強い狩野川」宣言

狩野川流域の市長、町長により「地域でつくる水害に強い狩野川」宣言が行われ、沿川地域が一丸となった減災、防災の推進について確認するとともに、中部地方整備局河川部長に宣言文が受け渡されました。

(写真: 左から伊豆の国市長、函南町長、伊豆市長、中部地方整備局河川部長、三島市長、清水町副町長、沼津市長)



「地域でつくる水害に強い狩野川」宣言

狩野川は、天城山系を源とする豊富な水量と、伊豆半島の織りなす豊かな自然環境や風光明媚な景観などにより、多くの人々の憩いと安らぎの場となっています。一方、ひとたびまとまった雨が降ると様相は一変し、流域住民の生活を度々脅かしております。

昭和33年の狩野川台風では未曾有の大出水となり、流域に甚大な被害をもたらしました。

こうした中、昭和40年に狩野川放水路が完成し、今年で50年を迎えたところですが、幸いにも尊い人命が失われるような被害は発生しておりません。しかしながら、近年、気候変動に伴い激甚化する水害が全国的に頻発する中、狩野川流域においても、たびたび内水被害などが発生しています。

ついては、狩野川沿川市町、関係団体、地域住民が一丸となって減災、防災の取り組みを積極的に推進し、水害に強い狩野川をつくり、地域の安全・安心を確保するため、以下のことを宣言します。

1. 水害を未然に防止し、住民が安全で安心できる生活環境を構築するため、狩野川水系河川整備計画に基づくハード・ソフト一体となった総合的な治水対策が推進されるよう、全力を挙げて国に要請します。
2. 気候変動により頻発化・激甚化する水災害に対応するため、施設の能力を上回る外力に対して、施設の運用、構造等の工夫により減災を図るとともに、災害リスクを考慮したまちづくりの促進や的確な避難、円滑な応急活動などが実施されるよう国及び県に要請します。
3. 深刻化する内水被害に対し、国・県・市町など関係機関が連携して対策を具体化するとともに、床上浸水被害等の早期解消に向けた内水対策の実施について、国・県などの関係機関へより一層働きかけます。
4. 狩野川放水路をはじめとする河川事業の効果が、治水安全度の向上のみならず、地域の経済や観光・産業などへも大きく貢献していることを全国へ発信していきます。
5. 県東部・伊豆はひとつ、一丸となって絆を深め、狩野川流域の発展と創生に努めます。

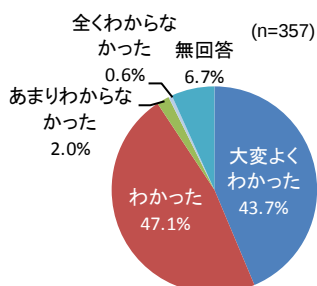
以上、宣言します。

平成27年7月7日

沼津市長、三島市長、伊豆市長、伊豆の国市長、函南町長、清水町長

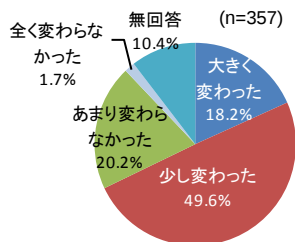
来場者アンケートの結果(一部抜粋)

◆『狩野川放水路』について理解できましたか？(建設の背景、歴史、放水路の効果など)

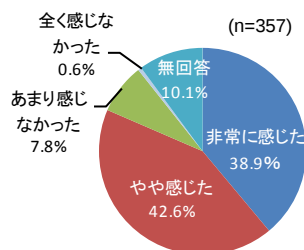


パネルディスカッション参加者への設問

◆水害時の自主的な避難についての意識は変わりましたか？



◆水害時に地域が連携することについて重要性を感じましたか？



◆今後の“狩野川台風の記憶をつなぐ会”の取り組みとしてどのようなことを期待しますか？

